

●第 17 回委員会 会議要点録

平成 18 年 6 月 19 日 18 時 30 分～21 時
多摩市役所 特別会議室

出席者：檜垣正巳委員長 白鳥光洋副委員長 岡崎和子委員 小澤尚子委員 武智秀之委員 堤香苗委員

事務局：企画政策部長 企画課長 企画調整担当主査 企画課主査 企画課主事

説明者：情報推進課長 情報推進課広報係長

第 5 回評価部会

(1)外部評価対象事業「コミュニティセンターの運営」について

(2)外部評価対象事業「広報活動」について

今後の予定

- 第 18 回 7 月 20 日(木曜) 18 時 30 分

【自治推進委員会】

委員 第 17 回自治推進委員会を開催する。本日は前回に引き続き評価専門部会を行うので、座長に進めていただく。

【評価部会】

コミュニティセンターについて

委員 本日は、コミュニティセンター事業についてまとめ、続いて広報事業について意見交換を行う。

今回は評価シートを使うことと、担当へ評価結果を投げかけて、回答をいただくということを決めた。コミュニティセンター事業については、各委員から事前に評価シートを提出していただいたので、評価の内容について意見交換をし、まとめていく。

委員 1 番目の必要性からみていく。

(1)サービスの対象となる地域、人、団体の範囲および人数(の変化)について。対象になっている人は、住民全員で良いか。

委員 (2)このサービスがない場合の問題について。

- 委員 他の施設で代替することで地域作りの機能を果たす必要がある。
- 委員 (3)民間で類似のサービスを行っているか。
NPO、公団というのも考えると、人と人を結びつけるサービスを行っていると考えられる。
- 委員 集会所的な機能という無いとはいえないが、コミュニティ活動の拠点としては無いと考えられる。
- 委員 コミュニティセンター機能としてはないが、個別の機能としては民間でも代替的な施設はあるということになる。
(4)について、他の自治体で類似のサービスは行っているといえる。
- 事務局 日野市にはコミュニティセンターはないと思う。集会所はある。
- 委員 名称は様々だが類似の機能を持った施設はあるということ。
- 委員 1番目、必要性について。
- 委員 Bにつけた。このサービスがない場合の問題。コミセンがなければできない、老人福祉館がなければできないということがあるのが問題。機能を細分化しすぎていると感じる。
- 委員 そういわれるとそういう部分もあるが、行政が担当するという部分でないものもある。どちらかという必要性があるとしたいが、Aとするとなると違和感がある。
- 委員 建物を造るのは行政だが、行政がサービスも提供するということに違和感がある。
- 委員 指定管理者に指定するというのも含めて行政であるということ。
サービスの必要性はあるが、それをコミセンでやる必要性が必ずしもあるとはいえない。
- 委員 実質的には変わらないが、Aにつけた。行政がやることは必要だと思うが、他の公民館や公共施設と一緒にしていくこと、整理・統合もしていかなければいけない。
- 委員 中身が変わるわけではないが、どちらにしても但し書きが必要となる。
- 委員 Aにするか、Bにするか。
- 委員 全体をみて最後に決めてはどうか。
- 委員 最後に決めることとする。
- 委員 2番目、経済性・有効性について。
- 委員 決算と委託料決算額の違いは？
- 事務局 コミュニティセンターにかかる経費全てが入っているのと、委託料部分だけとの違い。
- 委員 表の数字と合わせて見ると、16年では利用人数が 64,932 人である。特定の人

使っているのではないか、利用する団体が決まっているのではないか、使い勝手が悪いのではないか、これらのことが利用者の数を制約していることになるのではないか。

コミュニティセンター自体は住民自治の推進に貢献しており、コストも削減しているが、利用人数は減少が見られる。数を増やせば良いということではないが、利用者の増加を考えても良いのではないか。

事務局 近くに施設があるとそちらに利用者が流れるということはある。フリーの利用者のカウントはしていないので、人数は把握していない。

委員 コミュニティルームの利用人数も若干減り気味である。

委員 他の施設を利用しているように感じる。利便性の良い施設を使い、近くにあるという理由だけで地域のコミセンを使うわけではなくなっていると考えている。また、地域活動だけを専念してやっている人が減っていると思う。学校開放の利用者は増えているので、地域の活動への参加が落ちているとは思わない。

委員 地域に一番密着しているのがコミセンなので、利用者の幅を広げてできるだけ多くの人に使ってもらうには、企画を充実していかなければならない。自己実現やカルチャー的なものだけではなく、気軽に自治を取り入れるなど、違う角度で利用者を拡大していくことも必要。ハード不足が生じてくるのならば、他の類似施設と連携により広げることができる。

委員 多摩市は武蔵野市のように狭くないので、ネットワークなどの広がりが必要。

委員 一時期は、住居の狭さが原因で市外に出て行く方もいたが、今はアクセスの悪さが原因で駅前に移動する人もいる。

委員 地域コミュニティに限定された活動になりがち。ネットワークを広げる必要がある。

委員 コミセンに駐車場もなくアクセスが不便との指摘があったが、徒歩や自転車でのアクセスを前提とした施設ならば、そういう地域の人たちが使いやすい内容、普段着でこられる気軽な施設にしていれば利用者も増えるのでは。

委員 小学校・中学校の活用では駄目だろうか。

委員 代替性をもっても良いと思う。武蔵野では本館、分館で機能を分担している。

委員 公園と併設などにしては。単独であるというのは、もうむずかしいのではないか。

委員 公園で何かをやりたいときは申請すれば良いのか。活動の場をコミセンに限定せず、外で行っても良い。

委員 利便性の高いところにしっかりしたものを造るとなると、駅周辺に造り、重複するところに簡易的な施設を造るという考え方で、誰が決めるかという住民になるが。

委員 全市的な施設、拠点施設、地域施設の区分けを。

委員 安全性を考えると諸刃のところがあるが、学童クラブ的なアフタースクールに入ったときに、地域のサークルの方がお絵かき教室を開いていけば良い。学校で完結していればとても良いと思う。実際海外ではそういうところがある。現在は学校が終わると家に帰されてしまう。地域の中核にアクセスが良い場所にあるのは、学校なので、そういう使い方をすれば、廃校になるということもなくなるのでは。10年20年後の多摩市を考えていかなければ、唐木田の駅前に作るという話はやめて。

委員 (2)目標対実績・・・達成度について。ソフト面ではPTAがやっていることが多い。そうでないところは年齢層がぐっとあがっている。

委員 コミセンで盛り上がるのは、運動会やどんど焼き。これらはコミセンが主催か。
事務局 自治会との共催でやっている。

委員 こういふ活動の領域を広げてもらいたい。

委員 3番目、公平性について。どのくらい受益者に負担を課すのか、利用者の負担はコミュニティルームの使用料金を2時間単位くらいにすること、規制緩和をすることを検討して欲しい。

委員 コミセンの事業収入で、桜ヶ丘が突出して大きい、これは駅が近いからか
事務局 桜ヶ丘は市役所の裏なのでそれほど駅に近くはない。

委員 利用者負担をどのくらい拡大していくか。

委員 金額的にはもっと高くても良いのではないか、グループならば一人が100円くらいを持ち寄って借りるくらいでも良い。

委員 使用料の設定の根拠は。

事務局 他自治体の状況を参考にしつつ、実際にかかる費用の半分くらいを負担してもらうことを基本に設定した。使用料審議会では、現状の減免規定の見直しを行い、会議室料金等の見直しは次のステップで行う考えである。

委員 委員の中には、光熱水費を払うのはあたりまえという意見もあった。

委員 無料とは税金から何千万という支出をすること、と考えると、利用しない人への公平性を配慮することが多摩市で暮らすことの住みよさに繋がる。施設修繕はしかたがないが、ランニングコストは利用者負担が良いと思う。

委員 日曜日の利用者が少ない場合、日曜に開館しなければいけないのは不合理。

委員 応分の負担をするのが公平なのではないか。公民館、パルテノンなどは非常に予約がとりにくいので。

委員 受益者負担をあげると利用者がへり、アンバランスになるのではないか

委員 塾がコミセンを使えることになれば、会場をパルテノンからコミセンに移す人も出る。コミセンの金額をあげて、制約をはずして、収益がでたら館長がとれば良い。

人気がなければ給料を減らせば良い。ボランティアが主になっていけばむしろかしいと思うが。

委員 地域のコミセンであれば、お年よりなど、遠くに行くこともままならないような方が利用しやすいことのほうが大切なのでは。それ以外の部分で、営業的なところにも解放して、そちらから使用料をしっかりとるということでも良い。つまり、ボランティアでやっている企画は地域の人に参加しやすいようにする。営業的なものも確かに需要があるので、利用しやすくすること。

委員 受益者負担には賛成。運営協議会ごとに利用状況は違うので自分で変えられることを担保してあげて、条例でカチカチしばらない方がよい。

委員 運営協議会で5段階くらいに料金設定をして、利用者にプレゼンテーションさせて利用料金を決めるなどしてみてもどうか。手間はかかるが楽しく運営できれば良いと思う。

委員 運営協議会が収益をあげることを禁じているのか。

事務局 駄目というわけではない。市と協議が必要だが。

委員 あからさまな営業でなければ積極的にやっても良いということか。それには課税されるのか。

事務局 消費税を払っている。法人税は今までは払っていなかった。払わなくてすむくらいに営業にしていたが、これからは収益をあげていくことも考えていく。

委員 カルチャー教室のようにしているのは場所を貸しているだけなのか

事務局 2種類ある。コミセンが企画しているものと、施設を借りた団体が企画しているものがある。

委員 ただのほうが良いという意見はあまりないと思う。普通に考えるとランニングコストを負担してもらうのが良い。適正な水準は議会で決めていただくにしても、実費を払うのは当然ではないか。

委員 利用勝手が悪いものがあれば規制緩和をそれぞれで考えてくださいということや、こうすればもっと利用が増えるのではという提案をできれば。

委員 運営協議会に利用団体を評価する権限を与えては。

委員 武蔵野は自己点検のようなことをやっている。各協議会でやってみたが、コストもかかり大変で、委員会をもうひとつ立ち上げなければならなくなる。

委員 指定管理者にかわって、お金の出し方も変わっていると思うが、請負でやっているのも、もらったお金の使い方を考える義務があると思う。市のほうがコミセン同士自治会との橋渡しをしていけば良いとおもう

委員 各協議会の自治を広げていくことを考えていけば良い
規制を緩和、分権化する、公平性については、受益者負担を拡大する方向で投

げかけてみる。検討して判断してもらおう。

この委員会でどこまで踏み込んで良いのか、もうすこし抽象的に協議会に投げかけるのか。どちらが良いのか、個人的には抽象的に投げかけて、反応が悪ければ来年度検討しなおすというのでも良いのではないかと思っている。

委員 自治の推進の視点で表現しても良いのでは。

委員 行政評価が自治の観点だけで良いということそうではない、自治の観点でみて、納税者の視点でみることも必要。市民にとってそちらの方がわかりやすい。要望だけでは弱い。

委員 前回の話では担当課に投げかけるということになっていた。規制緩和や施設の複合の話は協議会にしても意味が無いので、行政に。協議会には前向きに投げかける、長期と短期の視点で表現を。

委員 具体的なほうが捉えやすい。ある程度要望のようなことがあっても良いとおもう。受益者負担は数値的なものを出す必要はないと思う。直接携わっている人があとは考えるのが良い。活性化が図られるような提案の仕方を。

委員 4番目、市民参画・市民協働について
コミセンの活動自体は

委員 協議会は市民の自主的なものなので、がんじがらめにするのではなく、経済的な裏づけが必要。使用料が運営協議会に入らなくなっているが、入るようにすることはできないのか。

事務局 できない話ではない。当初はそういう話もあったが、協議会側が負担感を感じるということで、現在は利用料金制をとってない。

委員 受益者負担は60万程度になっている。これを協議会にあげても市に影響はないと思う。

事務局 市の収入に入らなければいけないということでない。協議会に入って、うまく使ってもらえるのならば、それも良いと思う。

委員 立地条件等もあるので、全体で考えないと、もうかる、もうからないがでてくる。配慮が必要。

委員 経営努力をしてもらうためには、インセンティブの部分があったほうが良いと思う。

委員 規制を緩めるということだが、協議会の活動を活性化するようにとったほうが良い、好きにして良いということではなく。

委員 5番目、緊急性について。

委員 緊急性はあまりないとおもう。緊急性といえば、コミセンのない地域に何もしなくて良いということではないと思う
建物を作ってくれといわれても困るが、施設がないからどうかしてほしいというこ

とはないのか。

事務局 地域でまとまりとしての声はないが、自分たちが活動していく場所の確保ができな
いかという意見がある。

また、コミセンがある地域には事業費として150万くらい使えるお金があるが、コ
ミセンの無い地域にはそれもないので、地域で自由に企画できるお金があっても
良いのでは、という意見もある。

委員 総合福祉センターを使わせれば良いではないか。

委員 代替性を強調すると、やらなくても良いということになってしまうから、やってほしく
ないのか。

委員 予約が取りにくいということであれば、公民館など地域の住民への優先枠を設け
てあげれば良いのではないか。施設を拡張していくのは難しいと思う。ハードはい
ったんつくってしまうと拡張するのがむずかしい。

委員 他の公共施設に公民館福祉センター等の利用の代替を考えてと記す。

委員 Aにするとすると、行政が担当するのは、ハードなのかソフトなのかでひっきり
がある。Bでは、やり方に問題があるというほどでもない。

委員 バックアップすることが妥当と取ればAでも良い。

委員 行政が全部やるということではないが、Aにするしかないのでは。

委員 Aとする。

経済性・有効性

委員 問題があるという表現で無ければいけないのか。工夫が必要という表現ではいけな
いのか

委員 効果と効率の違いがよくわからない

委員 各コミセンでむらがある、稼働率をみるとBか

委員 改善課題があるということでBか

委員 Bとする

公平性

委員 Dにしたい

委員 負担の公平性が必要という議論だったと思うのでCとする

総合評価

委員 Cになるのでは

委員 良いのから順番にABCとなっているのか、説明をみるとよくわからない

委員 改善することは多々あるが、積極的に推進していかなければならないということ

委員 記述欄で記入するので、A・Bだから何もしなくても良いということではない。

委員 そういうことでいけばAかと思う

委員 評価基準の見直しは来年度にすとして、Aとする

委員 まとめは委員がつくり、事務局へ送る

広報

委員 実質の議論は次回にまわし、お話を聞くということにする。

事務局 資料説明

委員 町田だけが月に3回だが、2回にした方が良いという意見はないのか。

事務局 把握していない

委員 多摩と日野では人口がそれほど違わないのにアクセス数が違うのは？

委員 広報のページ数大きさは

事務局 アクセス数は、市によって、カウントのルールが異なる。広報の紙面は、八王子はA4版16ページ、他はタブロイド版8ページが平均。

委員 町田はお知らせする内容が、多摩市の1.5倍あるということになるのか

事務局 3回出していることを考えると、ボリュームは多摩より多い

委員 全て新聞折込か

事務局 そのとおり

委員 稲城は面積が小さい、八王子・町田は大きいのに、一人あたりの経費がすくないのは奇妙な感じがする

委員 ホームページで市民が一番関心を持っているものを見やすくという工夫はあるのか、

事務局 市民に重点的に伝えたいものは、ホームページ・広報で色を強めている、季節柄のものや行政として重点的にお伝えしたいものは色を強めている

委員 なければこのへんで広報はおわる

次回はコミセン事業の評価をまとめて、事前に送れるようにする

広報の話は次回までに評価シートに記入していただいたうえで、意見交換をし、できればまとめる。最終のところでは、2つをまとめてチェックするということで進めさせていただく

事務局 お手元に要点録を配っているが、何かなければ公表させていただく。
広報の原稿について、委員の指摘により次のように校正する。
「検証している」→わかりにくいので「事業評価している」
コミセンの「良いところを」→「問題のところ」

次回は7月6日(木曜)を中止とし、20日(木曜)に開催する 連絡はメールでとり、できるだけ、まとめる